

総合的な学習の時間入門期 第3学年前期の単元開発

～「附属探検隊，山へ行く！」の実践を通して～

鹿児島大学教育学部附属小学校 教諭 小菌 博臣

1 私の「総合的な学習の時間」

「真剣な眼差し。」

私が総合的な学習の時間（以下，総合）の授業で常に目指したい子どもの姿（眼差し）である。総合の究極的な目標である「自己の生き方を考える」ことを達成するためには，学習内容に対して自分事として真剣に向き合うことが前提となるからだ。つまり，総合の学習プロセスは，学習内容が他人事から自分事になっていくプロセスに他ならない。

今回は，総合入門期である第3学年前期の単元開発に取り組む。そこで，以下の点を基本的な姿勢とした。

- 生活科の学習経験を活かして取り組むことができる内容とすること
- 「遊び」を活動の中心に置き，総合の楽しさを存分に味わわせるようにすること
- 人・社会・自然が一体となった学習内容を設定し，本単元の学習経験が，次単元ばかりでなく，4年生以降の総合の学習へとつながるようにすること



2 本校の総合について

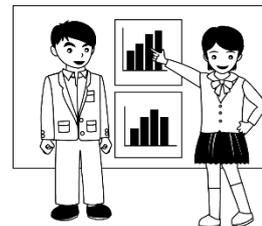
本校では，総合を「のぞみタイム」という名称で呼んでいる。のぞみタイムにおける目標及び育てようとする資質や能力を次のように設定している。

<のぞみタイムの目標>

身近な自然や社会，そこにかかわる人々についての課題を自ら設定し，互いに高め合いながら，情報を集めたり，調べたことを分析したり，表現したりすることができるようにするとともに，学んだことを基に自分の生き方を考えることができる。

<育てようとする資質や能力>

- ア 感じる力：対象に対して幅広く課題意識をもつ力
- イ 調べる力：課題に対して見通しをもち，様々な手段で調べる力
- ウ 考える力：比較・関係付けたり，多面的に考えたりする力
- エ 伝える力：追究したことを基に，目的に応じて伝える力
- オ 生かす力：追究したことを基に実践できる力



本校では，以上のような目標及び資質・能力を基に，各学年の学習内容や指導方法を具体化し，全体計画を作成している。

3 私の実践

(1) 単元について

① 子どもの学びの背景について

子どもたちは，これまでの生活科の学習で，未知な場所を探検したりものづくりをしたりしてきている。また，問題解決の過程で，図書で調べたり大人の人にインタビューしたりして活動を発展させていく学び方を経験している。しかし，生活科の特性から，それらの活動ほとんどが，個の活動を中心としたものが多く，友達と協力して，一つのことを成し遂げるといった学習経験は少ない。そこで，このような生活科の活動経験を活かしながら取り組むことができるような学習内容を設定した。



【生活科でのインタビュー経験】

② 学習内容（学習課題・学習対象・学習活動・学習事項）について

本実践は、里山（雑木林）を活動のフィールドとして設定した。里山とは、統一的な定義付けはなされていないが、田畑、民家、竹林、広葉樹林と言った人が自然を利用した区域一体のことを指す。つまり、人工と自然の緩衝地帯のような場所である。したがって、右の写真のように、里山では、人・社会・自然の様子が一体となって出現するのである。今日、里山が抱える問題は数多く、放置林の増加による竹林の増殖・生物多様性の低下・ゴミの不法投棄等様々である。こういった問題は、そもそも人間の山離れが原因である。そこには、山に入るといった物質的距離感だけでなく、意識的距離感も内面的には潜んでいる。



【雑木林内の水田跡（水路）】

そこで、本実践では雑木林を扱うこととした。この雑木林は、クヌギ・コナラ等の落葉広葉樹やスギ・ヒノキ等の針葉樹が多くみられる県有林で、森林ボランティアによって維持・管理されている。このようなボランティアの方々の協力を得ながら、山探検や秘密基地作りといった現地での山遊びと、話し合い活動や秘密基地や秘密基地遊びに必要な物の製作活動といった校内での活動を本単元の中心となる活動として設定する。



【目標に向かって協力する姿】

このような学習活動を通して、山での活動の面白さや友達との協力の大切さを実感させるとともに、山と自分とのつながりやボランティアの方々の生き方に気付かせ、進んで自然とのつながりを大切にしていこうとする態度を培っていく。

本単元での学習経験は、以降の総合の学習全般につながっていくとともに、前述の里山の抱える問題を自分事と捉え、山のために自分にできることは何かを考え、行動していこうとする生き方へとつながっていくと考える。

（2）単元の目標

- ア 山探検や秘密基地作りといった共通体験を基に、友達と話し合いながら取り組みたいことを決めることができる。＜感じる力＞
- イ これまでの経験や GT からのアドバイス、図書資料等を生かして、試行錯誤しながら自分なりに工夫して、秘密基地作りや製作活動に取り組むことができる。＜調べる力＞
- ウ 自分と友達の活動や工夫を比べて、共通点や差異点に気付き、自分の活動に生かしながら取り組むことができる。＜考える力＞
- エ 活動を通して、気付いたことや感じたことを分かりやすく、他者に表現したり、手紙やカード等書いたりすることができる。＜伝える力＞
- オ 自分の追究過程を振り返り、今後も人・社会・自然とのつながりを大切にしていこうとする見方・考え方をもち、山の片付けや間伐作業に取り組むことができる。＜生かす力＞

（3）指導計画（全36時間）

学習過程	主な学習活動	時数 (時間)	教師の具体的な働きかけ
発見	1 「山」に対するイメージを広げよう。	1	○ イメージの広がりを可視化させ、ウェビングシートを活用する。
	2 山へ行く計画を立てよう。	2	
検証	3 山で遊ぼう。	6	○ 安全指導を徹底する。 ○ 付箋を使って学習計画を時系列に沿って立てさせる。
	4 山遊びを振り返り、今後の学習計画を立てよう。	2	
創造 検証	5 計画を基に、2回目の山遊びに向けた活動を行う。	8	○ 学校での活動の際は、具体物を使って活動できるようにする。

創造 参加	6	2回目の山遊びへ出かける。	6	○ グループでの目標ややりたいことを明確にし、目的意識を高める。
	7	2回目の山遊びを振り返り、今後できることを話し合う。	2	○ 国語との関連を図り、手紙を書く活動を設定する。
	8	GTにお礼の手紙を書く。	1	○ GT から、片付けや間伐の意味を語ってもらうようにする。
	9	山へのお礼活動として、片付けや間伐作業を行う。	6	○ 山のため、そこでボランティアをしている人々のために、自分にできることを話し合う。
	10	単元全体を振り返り、学んだことやこれからの自分の生き方について考えて話し合う。	2	

(4) 単元の実際

学習過程	主な学習活動と実際の子どもの姿 (子どもの思いの連続・発展)	教師の具体的な働きかけ
発見	<p>1 「山」に対するイメージを広げよう。</p>  <p>【子どものノート】</p>	<p>○ ウェビングの際の発問。</p> <p>① 山にあるものは？ ② それを使ってできることは？ ③ 山でやってみたいことは？</p> <p>○ 上記の発問について、これまでの経験を基に、自由に書かせた。その際、これまでの学習経験や生活経験を踏まえたものや、素朴な考えを認め、価値付けるようにした。</p>
検証	<p>2 山へ行く計画を立てよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・準備物 ・安全指導 ・簡易トイレの使い方 <p>3 山で遊ぼう。</p>  <p>【樹木医さんと山探検】</p>	<p>○ 事前踏査をした際に撮った写真を見せ、具体的な物や場所を見せながら安全指導を行った。</p> <p>○ 山遊びでは、まず山探検行い、活動する雑木林の概観をつかませた。その際、グループ名を雑木林にいる動植物名から付けるよう指示して、多様な動植物に目を向けることができるようにした。</p> <p>○ その後、どのような活動を行うか、話し合う活動を設定した。</p> <p>○ 具体的な安全指導に関しては、以下のような指導を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全ロープや境界木にテープを巻いて、活動範囲を限定 ・GTからの「のこぎり指導」
創造	<p>4 山遊びを振り返り、2回目の山遊びに向けて、今後の学習計画を立てよう。</p>  <p>【付箋で作った計画表（1班のみ）】</p>	<p>○ 2回目の山遊びに向けて、学校で取り組みたいことを付箋に書いて、時系列に並べながら活動計画を立てることができるようにした。その際、GTにも来校してもらい、山の材料をもってもらうなど、協力をお願いできるようにした。</p>

学習過程	主な学習活動と実際の子どもの姿 (子どもの思いの連続・発展)	教師の具体的な働きかけ
検証	<p>5 2回目の山遊びに向けた活動を行う。</p>  <p>・目印に、看板と旗を作ったよ。 ・釘を上手に打ちつけて、荷物掛けを作ったよ。</p> <p>【秘密基地に関する製作活動】</p>  <p>・ボランティアの人たちに教えてもらって、箸とコップと箸置きを作りました。とてもうれしかったです。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ ボランティアに協力をお願いし、雑木林にある材木を学校に運んでもらい、それを使って製作活動が行えるようにした。 ○ 活動計画表を基にしながらも、活動の前には、本時にやることを班内で確認させたり、活動後には、やったことや感じたことを交流させたりさせた。 ○ 共通の製作活動として、ボランティアの方々に来校してもらい、工作教室を設定した。ここでは、竹を使った「箸・コップ・箸置き」に製作物を絞り、製作物ごとにブースを作り、子どもが移動しながら、作りたいものに挑戦できるようにした。 ○ 野外活動では、2班に1人ずつボランティアの方を付け、ボランティアの方々とのかかわりを深めるようにした。その際、活動前に、自己紹介や班の目標を発表させ、目標を共有できるようにした。 ○ 学校で作った看板や飾りなどを持って行かせ、学校での活動を生かすことができるようにした。
創造	<p>6 2回目の山遊びへ出かける。</p>   <p>【2回目の秘密基地作り】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 野外活動では、2班に1人ずつボランティアの方を付け、ボランティアの方々とのかかわりを深めるようにした。その際、活動前に、自己紹介や班の目標を発表させ、目標を共有できるようにした。 ○ 学校で作った看板や飾りなどを持って行かせ、学校での活動を生かすことができるようにした。 ○ これまでの製作活動や班による話し合い活動が生かされた取組を称賛し、価値付けるようにした。 ○ 国語科「気持ちがつたわる手紙を書こう」と関連を図った。国語科で、手紙の書き方を指導し、総合で、事前の話し合いと実際に書く活動を設定した。
参加	<p>7 2回目の山遊びを振り返り、今後やってみたいことを話し合う。</p> <p>・協力して秘密基地ができて、とてもうれしかったです。 ・夏休みに、もう一度、家族と行きたいです。</p> <p>8 GTにお礼の手紙を書く。</p> <p>・〇〇さん、協力してくださって本当にありがとうございました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ これまでの製作活動や班による話し合い活動が生かされた取組を称賛し、価値付けるようにした。 ○ 国語科「気持ちがつたわる手紙を書こう」と関連を図った。国語科で、手紙の書き方を指導し、総合で、事前の話し合いと実際に書く活動を設定した。

4 さいごに

本実践は、まだ単元の途中である。今後は、里山について調べ、里山の価値を十分に感じて、秘密基地の片付けや間伐作業に発展していく予定である。ここまでの成果として、生活科とのつながりを踏まえた単元が作成できたこと、また、子どもが夢中になれる内容を発掘できたことである。しかしながら、4年生以降の単元との系統性については、まだまだ理論や実践が足りていない状況である。今後の課題である。

改めて、振り返ると、子どもたちは、山と出会い、人と出会い、次第に「真剣な眼差し」へと変わっていった。友達とのトラブルもその度に話し合いながら目標に向かって取り組んだ。そして今後、新たな自分と出会う、そんな総合を目指していきたい。

最後に、本実践は鹿児島県生活科・総合的学習研究協議会の会員の先生方他多く先生方にアドバイスをいただきながら行った実践である。ここに、深く感謝の気持ちを伝えたい。

<主な参考文献>

- 小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編 (文部科学省) H. 20. 8
- 総合的な学習の時間を創る (日置光久監修 鹿児島大学教育学部附属小学校 著) H. 12. 6